

せざる所にして、交通の難易は道路水路及鐵道の有無及良否に依る事明なり、而して水路及鐵道は其位置を限らるゝも道路は自由にも其用を果すのみならず、鐵道の停驛或は港灣の埠頭より需要供給の終局まで物資を送達す。

道路は時勢の進むに従ひ一般に希望し或は又必要とする状態に於て變化し、徒歩通行に適せば足れりとせしものも人車馬車の通行に差支なきを希望し、尙進んで今日の如く自動車の疾走に適するを必要とするに至れり。然るに我國道路の状態は幹線たる國道に於ても、或は勾配過急或は幅員狹隘又は屈曲急激にして、馬車の通行を妨げ且つ未だ大河にして橋梁の架設なきもの少なからず。我邦最も交通頻繁にして主要なる東海道筋に於てすら、其の法規に適する幅員、屈曲に至る事前途尙遼遠とす。故に一日も速に我産業發展、能率増進、農村救済等の爲適當に自動車の疾走し同時に互に行違ひ得る程度に改良するを必要とする所なり。

道路改良費豫算を全部削減するは産業發展農村救済を阻害す

此頃新聞紙の報道する所に依れば、大正十四年度に於ては政費節約の爲政府は從來採り來れる道路政策を變更し、道路

改良費豫算を全部削減する由なるが、之れ大に不可とす、何となれば、國運は靜止せずして進まざれば退く、而して日進月歩の時に當りて、右の如き必要なる道路工事の中止又は繰延は國運を退歩せしむるものにして、引續き前進の策を採らざるば、政費節約をなし財政を確固ならしめんとして反て、産業發展、農村救済等を阻害するの結果を得るに至るべし。

小池銀行頭取 小池 國三

農村救済策と道路問題

道路改良に相當重要な意味があると

信ずる

昨今農村振興問題が喧しく論議され、諸多の救済策が説かれて居るが、思ふに我國の如く、天然資源の乏い國柄では、何程商工業が發達した所で、結局急激に増殖する人口を無限に商工業都市に收容することは不可能であつて、海外移民又は農村改善に依て都市集中の傾向を矯め、可成多數を地方農村に收容せねばならぬことゝ信ずる。それには農民に田園的文化生活を営ましむる様にして遣ることも一の重要な方策と考へる、而して其方法として道路問題が必然的に考慮に上るの

である、理想としては、運搬機械力を利用して、道路網を作る
ことであるが、それは暫く置いて問はずとするも、兎に角農民
の生活費低減問題に關聯して、或程度の道路改良は當面の急務
なりと信ずるのである、何んとなれば今日の物價高の原因が
主として運賃の高價に基因し、而かも之は道路設備と重大關
係を有するからである。尙ほ從來自然に委棄された各種生産
物が道路の改良發達に依り、地方収入の増加に關係を有する
ことも考へねばならぬ事と思ふ、貨幣經濟の今日に於ては農
民金錢支出は益々多端となるから、副業又は遺利を開拓して、
之を金錢に換價し得ない限りは農村救済は到底覺束ない様に
思はれる、之等の點に於て道路改良は相當重要な意味がある
と信ずる。

小運送と道路問題

道路其他の設備は物價及生活費低下問

題の重要關鍵である

從來道路が不完全の爲め運搬機械力を充分に利用し得ざり
したため、多額の運賃を支拂ふの不利があつて、近距離の小運
送が却て遠距離の船車に依る運賃よりも高價であると云ふ珍
現象を示して居るのである、之は直接物價問題と密接な關係

を有するのであつて、道路其他の交通設備は物價及生活費低
下問題の重要關鍵である。

財政緊縮の爲道路工中を中止又は繰延する の可否

今日財政緊縮のため道路改良費を中止
又は繰延すると云ふことは場所に依り
自ら緩急の別はあるべきも全然財政緊
縮の犠牲たらしむべきや否やは考慮の
餘地あるべし

農村問題、物價問題が焦眉の急なることは世上既に定説の
ある今日、財政緊縮のため道路改良費を中止又は繰延すると
云ふことは、場所に依り自ら緩急の別はあるべきも、全然財
政緊縮の犠牲たらしむべきや否やは考慮の餘地あるべし、現
在國民が負擔過重に苦しむつゝあるは事實なるも、當分税制
整理が行はれそうにも思へないから、財政整理に依り捻出
さるゝ剩餘金及豫算に編成された土木費は他の款項との衡量
緩急に應じ、全然削除さるゝことなからんことを希望する、
況んや道路網の完成は港灣治水事業と共に國防及災害豫防上
重大問題であるからである。

地方財政と道路問題

一般道路事業に對しても相當の國庫補助を希望する

地方財政の膨脹特に甚しく既に行詰を示し、中には利子支拂を他日の公課収入に充つが如き土木事業が府縣市債により調達されて居り、殊に震災地方團體の財政は逼迫の極に達して居るのみならず、一方國民の負擔能力も餘裕を有せざる今日、道路事業を地方自治體の負擔に於て完成せしめんとするが如きは、百年河清を俟つ様なものであつて、急を要する復興事業及農村救濟策の一、要目たる道路改良事業は、當然政府の補助に俟つより外途がないのである、復興費豫算に現はれた政府の方針を見ても、又最近實施された復興貯蓄債券法に依り調達さるゝ二億圓を復興費及地方産業資金に充當すると云ふ政府の聲明に徴しても、自治體に餘裕なき事實は政府に於ても充分之を認めて居る譯であるから、獨り震災地のみならず、地方一般の道路事業に對しても、國庫より相當の補助を爲し、之が改良助成を急速ならしむることを、希望して止まない次第である。

京都帝國大學
經濟學部教授

小島 昌太郎

農村救濟策と道路問題

道路の新設又は改良が農村救濟策の一として、何等かの意味を有つものとするれば、それは運送費の輕減と云ふ點であらねばならぬ。我日本の道路は何と言つても、まだ原始的狀態を去ること遠からざる程度にある。大都會の道路でも鋪裝せられたものは極めて少ない。そして縦ひ鋪裝せられて居ても、之を洗滌しないから、風ある時や自動車が疾驅したあとは、砂塵騰々として、鋪裝なき道路よりも却つて非衛生的である。大都會の第一流道路が既にかくの如きものだ。僻陬の農村に於ける道路に至つては、強力な牛馬の力を俟つて初めて農産物が運搬せられ得るに過ぎない。農村の人達は先祖傳來かゝる道路に慣れて居るから、かくの如き勞苦多き運搬方法も或は日常事と見做して居るかも知れないが、若しその道路が少くも二間幅に擴張せられ、粘砂混用の鋪裝でも出來、生産組合又は消費組合に一臺の荷物自動車でも供へて、農産